学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会科】

1. 対象 5年生

児童は、これまでも、教科学習で、実社会に関わりのある問い（単元終盤の課題）を探究する学びをしている。多様な資料を読み取って学び、自分の考えをもって、話し合ったり、提案したりする活動を行っている。「米作りのさかんな地域」では、日本穀物検定協会の「お米の食味ランキング」の結果から「新潟県は、生産量は1位なのになぜ特Aを1つしか取れていないのか、静岡県が3年連続特Aを取っているのはなぜか。」など、問いや興味をもって調べ学習を行った。米作りに必要な自然条件を資料から読み取り、グラフから米の生産量や消費量の変化、農業で働く人数の変化や米作りに携わる人々の工夫や努力を知って、自分たちに何かできることはないか考え、お米イベントを開いた。

本単元でも、地域社会から日本全体を考えたり、実社会で活躍する人を招いて話を聞いたり伝えたりする活動を行う。単元前の児童アンケートでは、「自分の家の自動車メーカーが分かりますか」との問いに、約6割が分かるとし、メーカーについて答えていた。しかし、最近の車のニュースについて知っていること、最新の車で知っていることはありますか」の各項目では、75%が知らないと答え、自動車の製品に対する知識の低さが見られた。また、自動車に乗ることは、未来の自分たちのことであることから、より自分ごととして解決していく必要があると考えた。

このことから、本単元では、「未来の〇〇に必要な車はどんな車だろう～〇〇小自動車から△△自動車に提案しよう」として進めていく。実社会と通じる課題を設定し、より自分ごととして捉えられるようにしたい。さらに、探究サイクルを意識化し、多様な資料から情報収集し、読み取れた情報を整理分析し、自分の考えを提案し合うまとめ表現の場を設定していく。学んだことをもとに、新しい事象を分析（未来を予測）する学習過程において、将来に通じている社会科の教育に主体的に取り組めるようにしたい。

2. 単元名 「未来をつくり出す工業生産 自動車の生産にはげむ人々」（全時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	自動車の製造工程、工場相互の協力関係、優れた自動車工場の技術などについて、各種の資料や地図帳などで調べ必要な情報を読み取り、自動車生産に関わる人々の工夫や努力が工業生産を支えていることを理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化と関連付けて、これからの自動車をさらに安全や安心にしていくために、自動車生産が未来の生活へ果たす役割について考え表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	自動車生産について、学習計画をたて、予想や振り返りを行いながら、主体的に学習課題を追究し、学習したことをもとに、これからの自動車生産の発展について考えようとしている。

4. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い（単元を貫く問い、単元終盤の課題）

未来の〇〇に必要な車はどんな車だろう。
〇〇小自動車から△△自動車に提案しよう。

考えるための材料（単元）

単元を通して、情報共有アプリを使い、カードに意見を書いて共有していく。

①日本の工業製品について知ろう。

「今と昔の工業チェンジカード」を作成する。

家の人にインタビューして、昔より変わった機能、感想、さらに良くなって欲しいことについて聞いて作成する。

②自分が大人になったらどんな車に乗りたかについて、「自分が乗りた車カード」を作成し共有する。形・色・機能の視点で考える。

③「自分が乗りた車カード」の一覧できるボードを見て、家の人や高齢者が乗りた車に投票する。

④未来に必要な車に対しての意見や考えをもつために、学習計画を立てる。

- ⑤学習計画をもとに調べ学習で分かったことを、プレゼンテーションソフトにまとめていく。
- ⑥自動車開発の参考になる「自動車の二酸化炭素排出量の割合」「交通事故発生状況の推移 2023」「高齢者と高齢者以外の交通事故死者の推移 2023」「〇〇町年齢別人口 2024 年 10 月」の 4 つの資料をボードに配付する。

想定される活動

- ①暮らしの中にある工業製品全般に対して、消費者の暮らしの変化や願いから新たに改良や開発がされ、さらに暮らしが便利になってきたことを、家族のインタビューから実感する。情報共有アプリでカードを作成し、共有する。
- ②自分が乗りたい自動車は人それぞれ違うこと、消費者の買いたい車は様々であることに気付かせ、それに対応する自動車工場の技術や工夫に興味をもてるようにする。
- ③情報共有アプリで乗りたい車カードを「みんなのボード」に集め、投票できるようにする。家族や高齢者の多い地区であるため、自分の乗りたい車と、この地区に必要な車や、願いが違っていることに気付く。
- ④見方・考え方を、「時間」「場所」「人、こと」で分類できるよう黒板表示し、これに沿って自動車工業について、疑問を出し合う。
 - 「時間」… 1 台あたりの作る時間、1 日に何台できるのか、1 日あたりの作業時間
 - 「場所」… 工場はどこにあるのか、海外へはどこから運んで何台出しているのか
 - 「人、こと」… どうやって人の手で作るのか、部品はどんな種類があるのか、1 台に何人必要か
- ⑤自分で調べ学習を進められるように、前時の問いをプレゼンテーションソフトにまとめ作成し、配付する。シートは、問いごとにページを用意する。また、1 枚の問いに答えとなるキャッチコピーを考え、問いに対する答えの重要な部分を 1 行で表現する。
- ⑥終盤の課題に向けて、4 つの資料から読み取ったことで自分なりの思いや願いをもつ。
 - 「自動車の二酸化炭素排出量の割合」
自家用自動車約 60% も占めている。自家用車の排出ガスを減らしていく必要があるようだ。
 - 「交通事故発生状況の推移 2023」
事故全体の数は減っている。20 年前よりも約 3 分の 1 になって負傷者数も減っている。でもまだ事故が無くなっているわけではない。
 - 「高齢者と高齢者以外の交通事故死者の推移」
高齢者の死者数は、どの年も事故全体の半分以上を占めている。今後も、高齢者で運転する人は増えていくから、高齢者の事故も多くなるのではないか。
 - 「〇〇町年齢別人口」
現在の平均年齢は 60 歳である。未来は、この地区はさらに高齢者が運転するようになっていく。事故は、増えていくかもしれない。

対話と思考 本時（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

教科書の資料や前日に配付した資料をもとに、ピラミッドチャートにある付箋を動かして順位を付けて示しながら、未来に必要な車について思考を整理する。項目は、安全、排ガス、ユニバーサルデザイン、乗り心地、値段、形デザイン、DVD やカーナビ、を視点とした。この中に無い場合に書き込める付箋も用意する。本時の最初の考えと最後の考えが比較できるように、ピラミッドチャートカードを 2 枚準備する。

また、自分の考えをもって、対話に臨めるように、自分の意見や事実をカードに書く。また、配付した資料や教科書の根拠となるグラフや画像を貼り付けてカードを作成する。

ピラミッドチャートを共有し、意見の違う友達と交流し、考えを広めたり、深めたりできるようにする。

○安全…多数を占めていると考える。具体的に安全な車とはどんな車かを詳しく引き出す。

- ・高齢者が運転しても事故が起こらないように自動運転をしてくれる。
- ・死亡事故が起きないように、カメラが危険を見渡して、自動でブレーキをしてくれる。

○排出ガス

・二酸化炭素の問題も重要である。今年も異常気象ですごく暑かった。この問題を解決しなくちゃ自分や妹たちの未来も危ない。早くこの開発をやらないといけない。

○ユニバーサルデザイン

- ・乗りやすさ、乗っていて安心感のある車は、全員ほしいはずだ。車椅子の方、高齢者の方が安心して乗れるようにしたい。

(この3つの視点だけでなく、多くの考えを取り上げる。)

※安い車だったらみんなが買えるからいいんじゃないの?と価格からの気付きを与える。

- ・安い車でも安全ではない車には乗りたくない。
- ・安いことも重要だが、1番目に大切なことではない。

※既習事項である自動車工場の生産者の思いを振り返り、話し合いの視点に入れる。安全に込められた思いは生産者の願いであることを振り返る。

- ・1台ずつ丁寧に検査をして、ミスのないものを消費者に届けていた。
- ・責任をもって、事故が起きないように車を作っている。

本時の最後に、話し合いから考えが変わったり、変わらなかったりしたことを示すために、もう一度ピラミッドチャートの付箋を操作する。その後、提出ボックスへ送り一覧を見られるようにする。

学習の成果 (予想される生徒のあらわれ)

未来の○○に必要な車は、第一に安全な車が必要だと思った。○○には、高齢者で運転する方がもっと多くなってくると考えられる。自動運転の車が運転をサポートしてくれて、事故を起こさないようにできる車が欲しいと思った。友達が言っていた、排出ガスの少ない車も大切だと思いました。この先の未来のことを考えると、早く開発していかなければならないと考えた。どれも大切で、未来には必要だけど、まずは、運転する人が事故が起きないようにする安全な車が必要だと考えた。